

# 《日商簿記2級》 —工業簿記—

## 27. CVP分析

～短期利益計画に役立つ分析手法について～



ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiiroha.com>



# CVP分析

～CVP分析とは？～

<CVP分析の概要について確認しよう!>

ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiirroha.com>



# CVP分析

- ・CVP分析とは、( )とも言われ、短期利益計画を策定・実行するのに役立つ分析手法である。
- ・CVP分析の「CVP」とは、3つの会計用語 [Cost ( )・Volume ( )・Profit ( )] の頭文字をとったものであり、これらの関係をもとに目標利益などの計算(分析)を行っていく。
- ・CVP分析を行う際は、変動費と固定費を区分して製品原価の計算を行う( )方式の損益計算書が用いられる。それは、変動費と固定費を区分せずに製品原価の計算を行う( )方式の損益計算書からは利益計画に有効な情報を得ることができないからである。

## ～全部原価計算方式と直接原価計算方式による利益計画について～

### ●利益計画の設定● 次年度の目標売上高を2倍にすると…

計画できる  
(計算可能)



・製品原価は変動費のみなので  
販売量(生産量)に応じた計算が可能

P/L(全部原価計算方式)	
I. 売上高	1,000
II. 売上原価 ← 変動費+固定費	700
売上総利益	300
III. 販売費および一般管理費	200
営業利益	100



2倍

P/L(全部原価計算方式)	
I. 売上高	2,000
II. 売上原価	??
売上総利益	??
III. 販売費および一般管理費	??
営業利益	??

計画できない  
(計算不能)



・製品原価に変動費と固定費が混在しているので計算が困難

P/L(直接原価計算方式)	
I. 売上高	1,000
II. 変動売上原価 ← 変動費のみ	500
変動製造マージン	500
III. 変動販売費	100
貢献利益	400
IV. 固定費	
固定製造原価	200
固定販売費および一般管理費	100
営業利益	100



2倍

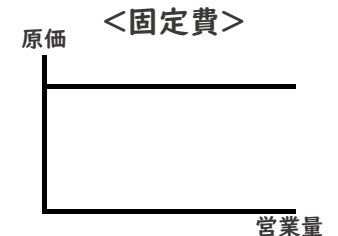
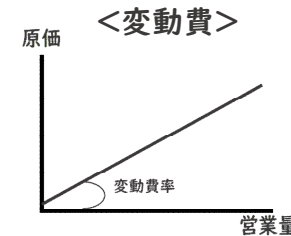
P/L(直接原価計算方式)	
I. 売上高	2,000
II. 変動売上原価	1,000
変動製造マージン	1,000
III. 変動販売費	200
貢献利益	800
IV. 固定費	
固定製造原価	200
固定販売費および一般管理費	100
営業利益	500

2倍

一定

### ○用語○

- ・損益分岐点…損益がプラスマイナスゼロとなる分岐点のこと
- ・短期利益計画…目標利益を獲得するための製造活動・販売活動を計画すること
- ・営業量…会社における経営活動の量のこと(生産量、販売量など)
- ・販売費…製品を販売するためにかかる費用(販売員の給料・広告宣伝費など)
- ・一般管理費…会社全般の管理にかかる費用(本社従業員や役員の給料など)



# CVP分析

## <CVP分析で用いる損益計算書について>

・CVP分析では、直接原価計算方式の損益計算書を簡略化したもので分析を行う。



### P/L (直接原価計算方式)

I. 売上高	1,000	
II. 変動売上原価	500	
変動製造マージン	500	
III. 変動販売費	100	
貢献利益	400	
IV. 固定費		
固定製造原価	200	
固定販売費および一般管理費	100	300
営業利益		100

### P/L (CVP ver.)

I. 売上高	1,000
II. 変動費	600
貢献利益	400
III. 固定費	300
営業利益	100

～参考 (CVP分析を行うための前提条件)～

- ①.原価を固定費と変動費に分けられること
- ②.その固定費は1期間において一定であること 
- ③.その変動費は販売量に比例して発生すること 
- ④.製品1単位あたりの販売価格は販売量に関係なく一定であること
- ⑤.生産量と販売量は一致すること (生産したものはすべて売れる)

## 《日商簿記2級》 -工業簿記-

### 29. 直接原価計算

～直接原価計算と全部原価計算について～

ミッチ「ボキいろは」 <https://bakiroho.com>



※直接原価計算の  
詳しい内容については、  
第29回で解説します!

## CVP分析

# ～CVP分析に関する用語について～ <CVP分析に関する用語を把握しよう!>

ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiirroha.com>



# CVP分析

## <CVP分析に関する用語について①>

・CVP分析で用いる用語は下記のとおりである。

( )…売上高から変動費を差し引いた金額であり、限界利益ともいう。  
会社の製品・サービスが固定費の回収にどれぐらい貢献しているかを示す利益である。

( )…売上高から売上原価を差し引いた「売上総利益(粗利)」から、  
販売費および一般管理費を差し引いた金額である。  
会社の本業で稼ぐ力を示す利益である。

( )…売上高に対する変動費の割合のこと

( )…売上高に対する貢献利益の割合のこと

( )…売上高に対する営業利益の割合のこと

I. 売上高	1,000
II. 売上原価	700
売上総利益	300
III. 販売費および一般管理費	200
営業利益	100

I. 売上高	1,000
II. 変動売上原価	500
変動製造マージン	500
III. 変動販売費	100
貢献利益	400
IV. 固定費	
固定製造原価	200
固定販売費および一般管理費	100
300	
営業利益	100

	<u>P/L</u>
売上高	1,000
変動費	600
貢献利益	400
固定費	300
営業利益	100

# CVP分析

## <CVP分析に関する用語について②>

・CVP分析で用いる用語は下記のとおりである。

		P/L
100%	売上高	1,000
60%	変動費	600
40%	貢献利益	400
	固定費	300
	営業利益	100

- ( ) …損益がプラスマイナスゼロとなる売上高のこと
- ( ) …一定の売上高(予想売上高や当期売上高など)に占める損益分岐点売上高の割合のこと
- ( ) …一定の売上高が損益分岐点売上高とどれだけ差があるか(損失となるまでにどれだけ余裕があるか)の割合のこと

## <損益分岐点図表(CVP図表)>



<【例題】一定の売上高を1,000円・損益分岐点売上高を750円とした場合>

○損益分岐点比率○

$$\frac{\text{損益分岐点売上高}}{\text{一定の売上高}}$$

○安全余裕率○

$$\frac{\text{一定の売上高} - \text{損益分岐点売上高}}{\text{一定の売上高}}$$

○数値の見方○

一定の売上高を(100%)としたときに、損益分岐点は75%の位置にあることを示す。この比率は、低ければ低いほど良い。

○数値の見方○

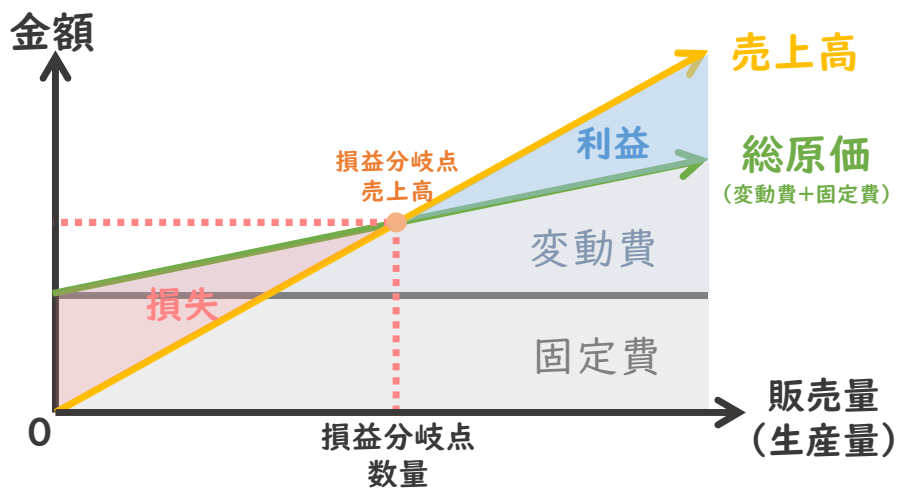
一定の売上高(100%)から25%減少したとしても損失(赤字)にはならないことを示す。この比率は、高ければ高いほど良い。

# CVP分析

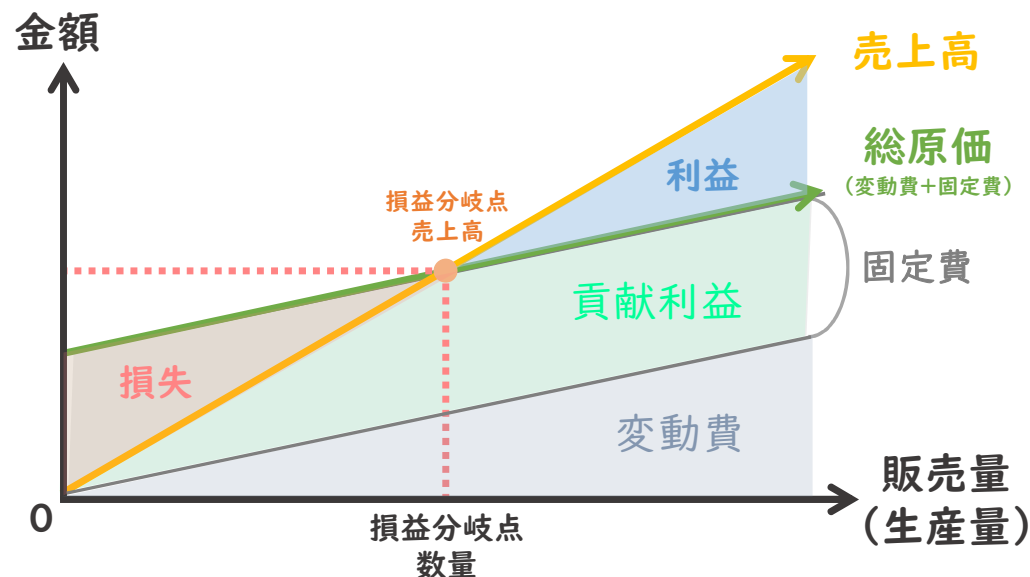
## <損益分岐点図表 (CVP図表) のパターンについて>

貢献利益…売上高から変動費を差し引いた金額であり、限界利益ともいう。  
会社の製品・サービスが固定費の回収にどれぐらい貢献しているかを示す利益である。

### 《固定費の上に変動費を乗せる場合》



### 《変動費の上に固定費を乗せる場合》



### ○参考 (固定費と貢献利益の関係) ○

変動費の上に固定費を乗せる場合は、「貢献利益」まで把握できるので販売量が増加するに伴い、固定費の回収を行っている様子が分かる。また、貢献利益と固定費が一致したところが損益分岐点であり、損益分岐点以降は完全な利益になっていくのが分かる。



# CVP分析

## ～問題解説～

<CVP分析の計算方法を確認しよう!>

ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiirroha.com>



# CVP分析

## 《問題1~2》

製品Aを製造する当社は、次期に向けた利益計画を行うことにした。次の資料に基づいて、解答欄に示すそれぞれの金額を計算しなさい。

## 【資料】

### 1. 販売価格

製品A1コあたりの販売価格：@1,000円

### 2. 製造原価

製品A1コあたりの変動製造原価：@400円

年間固定製造原価：150,000円

### 3. 販売費および一般管理費

製品A1コあたりの変動販売費：@200円

年間固定販売費：20,000円

年間一般管理費（すべて固定費）：30,000円

### ○ポイント○

資料をもとに計算用の簡易P/Lを作り、販売量を「x」もしくは売上高を「x」として考えていく。

## <計算用の簡易P/L>

売上高	@1,000	
変動費	@600	
貢献利益	@400	
固定費		200,000
営業利益		

※販売量を「x」とする。

<損益分岐点の販売量>

<損益分岐点売上高>

## 【解答】

1. 損益分岐点の販売量

コ

2. 損益分岐点の売上高

円

### P/L(直接原価計算方式)

I. 売上高		xxx
II. 変動売上原価		xxx
変動製造マージン		xxx
III. 変動販売費		xxx
貢献利益		xxx
IV. 固定費		
固定製造原価	xxx	
固定販売費	xxx	
一般管理費	xxx	xxx
営業利益		xxx

# CVP分析

## 《問題3～4》

製品Aを製造する当社は、次期に向けた利益計画を行うことにした。次の資料に基づいて、解答欄に示すそれぞれの金額を計算しなさい。

### 【資料】

#### 1. 販売価格

製品A1コあたりの販売価格：@1,000円

#### 2. 製造原価

製品A1コあたりの変動製造原価：@400円

年間固定製造原価：150,000円

#### 3. 販売費および一般管理費

製品A1コあたりの変動販売費：@200円

年間固定販売費：20,000円

年間一般管理費（すべて固定費）：30,000円

#### ○ポイント○

資料をもとに計算用の簡易P/Lを作り、販売量を「x」もしくは売上高を「x」として考えていく。

### <計算用の簡易P/L>

売上高	@1,000	
変動費	@600	
貢献利益	@400	
固定費		200,000
営業利益		

※販売量を「x」とする。

<目標営業利益の販売量>

<目標営業利益の売上高>

### 【解答】

3. 目標営業利益150,000円を達成するための販売量

コ

4. 目標営業利益150,000円を達成するための売上高

円

# CVP分析

( 営業利益率 )…売上高に対する営業利益の割合のこと

## 《問題5～6》

製品Aを製造する当社は、次期に向けた利益計画を行うことにした。次の資料に基づいて、解答欄に示すそれぞれの金額を計算しなさい。

### 【資料】

#### 1. 販売価格

製品A1コあたりの販売価格:@1,000円

#### 2. 製造原価

製品A1コあたりの変動製造原価:@400円

年間固定製造原価:150,000円

#### 3. 販売費および一般管理費

製品A1コあたりの変動販売費:@200円

年間固定販売費:20,000円

年間一般管理費(すべて固定費):30,000円

#### ○ポイント○

資料をもとに計算用の簡易P/Lを作り、販売量を「x」もしくは売上高を「x」として考えていく。

## <計算用の簡易P/L>

売上高	@1,000	
変動費	@600	
貢献利益	@400	
固定費		200,000
営業利益		

※販売量を「x」とする。

<目標営業利益率の販売量>    <目標営業利益の売上高>

### 【解答】

5. 目標営業利益率20%を達成するための販売量

コ

6. 目標営業利益率20%を達成するための売上高

円

# CVP分析

## 《問題7～8》

製品Aを製造する当社は、次期に向けた利益計画を行うことにした。次の資料に基づいて、解答欄に示すそれぞれの金額を計算しなさい。

### 【資料】

#### 1. 販売価格

製品A1コあたりの販売価格：@1,000円

#### 2. 製造原価

製品A1コあたりの変動製造原価：@400円

年間固定製造原価：150,000円

#### 3. 販売費および一般管理費

製品A1コあたりの変動販売費：@200円

年間固定販売費：20,000円

年間一般管理費（すべて固定費）：30,000円

$$\text{損益分岐点比率} = \frac{\text{損益分岐点売上高}}{\text{一定の売上高}}$$

$$\text{安全余裕率} = \frac{\text{一定の売上高} - \text{損益分岐点売上高}}{\text{一定の売上高}}$$

### <計算用の簡易P/L>

売上高	@1,000	
変動費	@600	
貢献利益	@400	
固定費		200,000
営業利益		

<損益分岐点比率>

<安全余裕率>

### 【解答】

7. 次期の予想売上高を800,000円とした場合の損益分岐点比率  
\_\_\_\_\_ %

8. 次期の予想売上高を800,000円とした場合の安全余裕率  
\_\_\_\_\_ %

# CVP分析

## 《問題9～10》

製品Aを製造する当社は、次期に向けた利益計画を行うことにした。次の資料に基づいて、解答欄に示すそれぞれの金額を計算しなさい。

### 【資料】

#### 1. 販売価格

製品A1コあたりの販売価格：@1,000円

#### 2. 製造原価

製品A1コあたりの変動製造原価：@400円

年間固定製造原価：150,000円

#### 3. 販売費および一般管理費

製品A1コあたりの変動販売費：@200円

年間固定販売費：20,000円

年間一般管理費（すべて固定費）：30,000円

#### ○ポイント○

当スライドの問題のように、問題によっては簡易P/Lに変更が必要な場合があるため、変更後の数値で計算を行うこと。

### <計算用の簡易P/L(変更前)>

売上高	@1,000	
変動費	@600	
貢献利益	@400	
固定費		200,000
営業利益		

### <計算用の簡易P/L(変更後)>

売上高	@900	
変動費	@600	
貢献利益	@300	
固定費		200,000
営業利益		

※販売量を「x」とする。

<目標営業利益の販売量>

<目標営業利益の売上高>

### 【解答】

9. 競合他社の出現により、販売価格を10%値下げせざるを得なくなった場合に、目標営業利益130,000円を達成するための販売量

コ

10. 競合他社の出現により、販売価格を10%値下げせざるを得なくなった場合に、目標営業利益130,000円を達成するための売上高

円

# CVP分析

## 《問題11》

製品Aを製造する当社は、次期に向けた利益計画を行うことにした。次の資料に基づいて、解答欄に示すそれぞれの金額を計算しなさい。

## 【資料】

### 1. 販売価格

製品A1コあたりの販売価格：@1,000円

### 2. 製造原価

製品A1コあたりの変動製造原価：@400円

年間固定製造原価：150,000円

### 3. 販売費および一般管理費

製品A1コあたりの変動販売費：@200円

年間固定販売費：20,000円

年間一般管理費（すべて固定費）：30,000円

9. 競合他社の出現により、販売価格を10%値下げせざるを得なくなった場合に、目標営業利益130,000円を達成するための販売量

1,100 コ

10. 競合他社の出現により、販売価格を10%値下げせざるを得なくなった場合に、目標営業利益130,000円を達成するための売上高

990,000 円

## <計算用の簡易P/L(変更後)>

売上高	@900	
変動費	@600	
貢献利益	@300	
固定費		_____
営業利益		=====

## ○ポイント○

「営業利益=貢献利益-固定費」であることから  
「貢献利益=営業利益+固定費」でもある。  
簡易P/Lからこのような点を考えていくこと

## <条件における固定費の金額> <固定費削減額>

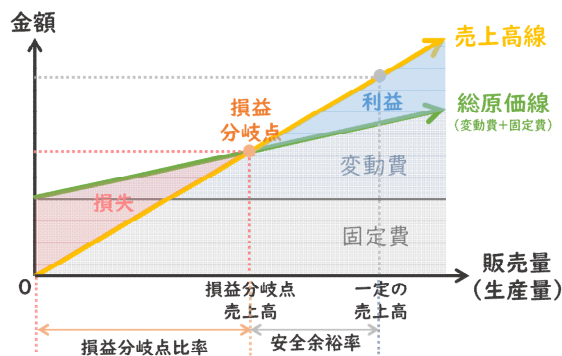
※(削減後の)固定費を「x」とする。 固定費削減額=削減前固定費-削減後固定費

## 【解答】

11. 市場調査の結果、値下げをしても「解答9.」で計算した販売量は1,000コが限界であることが判明した。そこで、値下げ後の販売価格、販売数量は限界の個数を条件として、目標営業利益130,000円達成のために、固定費を削減することにした。この場合における固定費削減額はいくらになるか。

円

\_\_\_\_\_



## 《まとめ》

<計算用の簡易P/L>

売上高	@1,000	
変動費	@600	
貢献利益	@400	
固定費		200,000
営業利益		

- CVP分析とは、( ) を策定・実行する際に用いられる分析手法である
- CVP分析における損益計算書は、原価を固定費と変動費に区分する( ) 方式の損益計算書を用いる
- ( ) とは、損益がプラスマイナスゼロとなる分岐点のことをいう
- CVP分析の問題を解答する際は、計算用に簡易P/Lを作って考えていく!



※この回の動画が「いいな♪」「役に立ったな♪」と思ったら、ぜひ、高評価をお願いします♡

第27回の内容お疲れさまでした♪

